

# 歩行訓練でバランス改善

## 磁気刺激と作業療法

### 併用の利点説明

北海道リハビリテーション研究所(会長 中村隆彦)が、歩行訓練と磁気刺激療法を併用した歩行訓練の効果について、11月27日(木)に札幌市にある「パリエール」にて、関係者を集めて説明会を開催した。

本研究所は、ロコモティブシンドローム(歩行障害)の歩行訓練に使用している「パリエール」の併用による効果について、説明会を開催した。説明会には、関係者約30名が参加した。説明会では、歩行訓練と磁気刺激療法の併用による効果について、説明会を開催した。



説明会では、歩行訓練と磁気刺激療法の併用による効果について、説明会を開催した。説明会には、関係者約30名が参加した。説明会では、歩行訓練と磁気刺激療法の併用による効果について、説明会を開催した。

# コメディカル

歩行訓練と磁気刺激療法の併用による効果について、説明会を開催した。説明会には、関係者約30名が参加した。説明会では、歩行訓練と磁気刺激療法の併用による効果について、説明会を開催した。

札幌東区医師会副会長 徳留章氏

歩行訓練と磁気刺激療法の併用による効果について、説明会を開催した。説明会には、関係者約30名が参加した。説明会では、歩行訓練と磁気刺激療法の併用による効果について、説明会を開催した。

## 専門職に聞く



2008年に北海道リハビリテーション研究所に勤務し、現在は札幌市にある「パリエール」にて、歩行訓練と磁気刺激療法の併用による効果について、説明会を開催した。

## 道HAL研

### あすから北大で道臨床工学技士会創立30周年を記念

道臨床工学技士会は、11月29日(木)に北海道大学で創立30周年記念大会を開催する。当日は、道臨床工学技士会会長の菅野氏が、道臨床工学技士の役割と今後の展望について、講演を行う。

## 福祉・介護ニーズに対応

### 地域密着のまちづくり

福祉・介護ニーズに対応するため、地域密着のまちづくりを進める。福祉・介護ニーズに対応するため、地域密着のまちづくりを進める。



元気があつた身体は、元気で生活できる。元気があつた身体は、元気で生活できる。

## 患者支援へ地域で連携

### 薬物療法の質向上を目指す

患者支援へ地域で連携し、薬物療法の質向上を目指す。患者支援へ地域で連携し、薬物療法の質向上を目指す。

道臨床工学技士会は、11月29日(木)に北海道大学で創立30周年記念大会を開催する。当日は、道臨床工学技士会会長の菅野氏が、道臨床工学技士の役割と今後の展望について、講演を行う。

道臨床工学技士会は、11月29日(木)に北海道大学で創立30周年記念大会を開催する。当日は、道臨床工学技士会会長の菅野氏が、道臨床工学技士の役割と今後の展望について、講演を行う。

道臨床工学技士会は、11月29日(木)に北海道大学で創立30周年記念大会を開催する。当日は、道臨床工学技士会会長の菅野氏が、道臨床工学技士の役割と今後の展望について、講演を行う。

道臨床工学技士会は、11月29日(木)に北海道大学で創立30周年記念大会を開催する。当日は、道臨床工学技士会会長の菅野氏が、道臨床工学技士の役割と今後の展望について、講演を行う。

道臨床工学技士会は、11月29日(木)に北海道大学で創立30周年記念大会を開催する。当日は、道臨床工学技士会会長の菅野氏が、道臨床工学技士の役割と今後の展望について、講演を行う。

道臨床工学技士会は、11月29日(木)に北海道大学で創立30周年記念大会を開催する。当日は、道臨床工学技士会会長の菅野氏が、道臨床工学技士の役割と今後の展望について、講演を行う。

道臨床工学技士会は、11月29日(木)に北海道大学で創立30周年記念大会を開催する。当日は、道臨床工学技士会会長の菅野氏が、道臨床工学技士の役割と今後の展望について、講演を行う。

道臨床工学技士会は、11月29日(木)に北海道大学で創立30周年記念大会を開催する。当日は、道臨床工学技士会会長の菅野氏が、道臨床工学技士の役割と今後の展望について、講演を行う。

道臨床工学技士会は、11月29日(木)に北海道大学で創立30周年記念大会を開催する。当日は、道臨床工学技士会会長の菅野氏が、道臨床工学技士の役割と今後の展望について、講演を行う。



2 kgから9.7 kg W M  
FT測定時間が444秒  
から54秒まで改善。発症  
から6年が経過した患者  
に効果があった例も伝え  
た。

また pathleia  
derは、磁力を用いる  
ことで、痛みを感じるこ  
となく強い刺激を与えら  
れ、重度感覚障害にも適  
応可能なメリットを持つ

一方で、弛緩性麻痺で反  
応が低下すると指摘。弛  
緩性麻痺に対応可能な  
随意運動介助電気刺激の  
I.V.E.Sと使い分ける必  
要性を強調した。

工学校士会創立30周年を  
記念した特別記念講演や  
教育講演、国際緊急援助  
隊医療チーム派遣活動報  
告などを予定している。

特別記念講演は、日本  
臨床工学校士会の本間崇  
理事長の「臨床工学校士  
の現状と将来に向けて」  
と、肥田泰幸常任理事の  
「臨床工学校士業務拡大  
の展望—在宅医療・サイ  
バー対策・連盟活動」の  
2題。

特別講演としてR札幌病  
院の吉田英明副院長が

「保存期CRD対策—腎  
代替療法に至る前にして  
おくべきこと」、教育講  
演では、日本光電工業の  
松原功氏が、「NP.P.V  
呼吸管理における安全管  
理」について解説する。

日鋼記念病院機器保守  
グループの齋藤拓也主任  
は、モザンビーク共和国  
サイクロン被害に対する  
国際緊急援助隊医療チ  
ーム派遣活動を報告。第56  
回生体医学研究会との  
共催企画として、日本生  
体医学学会の木村裕一  
理事長が「生体医学で  
の研究の進め方—研究を  
始めるに当たってこれだ  
けは押さえておこう」と  
題して講演するほか、守  
本祐司同学会副理事長が  
「今なぜ第一種M.E.技術  
試験を受けたのか」につ  
いて説明する。

ランチセミナー  
は、「植込み型心臓デバ  
イフ業務における臨床工  
学校士の現状と今後の展  
望」など4題。一般演題  
は、M.E.管理、血液浄化  
循環器、内視鏡・高気圧  
酸素などの分野に分か  
れ、61題が発表される。

30日午後6時30分か  
ら、ANAクラウンクラ  
ザホテル札幌（中央区）  
で創立30周年記念式典が  
開かれ、道臨床工学校士  
会初代会長の井関竹男氏  
が記念講演する。

認知症施策促進を目的と  
しており、今回も2回目。

# あすから北大で道臨床工学会 技士会創立30周年を記念

第30回北海道臨床工学  
会（会長・大宮裕樹R札  
幌医療センター臨床工  
学科科長）が、30日か  
ら2日間、北大学術交流  
会館で開かれる。道臨床

## 護ニーズに対応

## 密着のまちづくり

八室といった取り組みを通  
して地域に密着。さまざま  
なニーズに柔軟に対応  
しつつ、町内会と連携し  
たまちづくりを進めてい  
る。

移転新築した老健あお



体操は、座ったままでも簡単にでき  
る。紹介

そらの跡施設を改修し  
「ほくと自立支援ホーム」  
（高田康範代表）を開設。  
その一部として、18年3  
月にカンタキあおぞら  
（登録定員29人）を新設  
した。自立支援に加え  
住民とともに住みやすい  
地域を目指している。

無料で使える地域交流  
空間「サロンあおぞら」  
を施設内に設置。スタッ  
フのほか、町内会会長ら  
も委員に加えた「カンタ  
キあおぞら運営推進会  
議」で、サロンを活用し  
ての看護小規模多機能サ  
ービスの理解につながる  
取り組みや、住民と共に

健康かふえ。看護師  
理学療法士、笑いヨガイ  
ンストラクターらが講師  
を務め、普段の生活に役  
立つ豆知識などを紹介し  
ている。

毎週月曜日には、健康  
推進委員が講師となり、  
座ったままできる体操を  
メインとした参加無料の  
「元気はつらつ体操」を  
実施。近所から歩いてこ  
られる距離にあり、毎回  
30人ほどの住民が集ま  
ってくる。第3火曜日は  
「おひとり様お茶会」  
も開催。1回100円の  
参加料で、お茶とお菓子  
を食べながら、ただた  
すらおしゃべりして過し  
し、気軽に交流できる場  
となっている。

こうした取り組みの多  
くは、地域のボランティア  
が運営。地域住民の自

介護、福祉等の相談を受  
ける「街かど相談室」や、  
3人以上のグループを対  
象に、スタッフが出向い  
て介護・福祉などにつ  
いて話す「地域密着教室」  
などを通して、住民のさ  
まざまな悩みや疑問に応  
えている。

こうした活動をより  
多くの人に知ってもら  
うと、「あおぞら壁新聞」  
を月1回発行し、周辺の  
3町内会に配布。発行部  
数は90部以上ついでい  
る。

地域住民や各種介護サ  
ービスのスタッフらが参  
加する地域ケア会議や地  
域の研修会も同サロンで  
開催。今後は、趣味の活  
動などの利用も検討し  
ている。